



SUPERBIKE EXPRESS 2017 VOL.8 All Japan Road Racing Championship OKAYAMA

# SUPERBIKE EXPRESS--

Extra, Expert and Extreme



## パワーアップアイテムを手に入れた中須賀克行が 異次元の速さでポールポジション獲得! タイトルを争う津田拓也、高橋巧、渡辺一馬の戦いの行方は!?

シリーズ第8戦を、ここ岡山国際サーキットで迎えた全日本ロードレース選手権。6月の第5戦オートポリス以来の4クラス開催となり、JSB1000クラス以外は、久しぶりのレースウイークとなっている。シーズン終盤を迎え、それぞれのクラスでシリーズチャンピオンの行方も気になるところだ。4クラスの中で、今回チャンピオンが決まる可能性があるのがJ-GP2クラスだ。公式予選では、暫定ランキングトップを走る水野涼がコースレコードを更新しポールポジションを獲得。暫定ランキング2番手の関口太郎に29ポイント差をつけており、今回は、タイトル獲得に王手をかけている。最終戦MFJグランプリは、3ポイントのボーナスポイントがあるため、今回のレースを終えた時点で28ポイント差をつけていればタイトル決定。勝てば文句なし、2位、3位でも関口と生形秀之の結果次第でチャンピオンとなるが、勝って決めたところだろう。

JSB1000クラスは、第7戦オートポリスを終えた時点でヨシムラの津田拓也が137ポイントで暫定ランキングトップに立ち、ハルク・プロの高橋巧が134ポイント、カワサキの渡辺一馬が128ポイントで続いており、SUZUKI、Honda、Kawasakiのエースライダーがタイトル争いを繰り広げている。しかし、この3人の中で今シーズン優勝しているのは高橋巧のみ。津田と渡辺は、まだ未勝利という状況だ。ここまで6戦を終え、高橋巧以外で優勝しているのは、中須賀克行と野左根航汰というYAMAHA FACTORY RACING TEAMの2人が、それぞれ2勝を挙げてい

る状況だ。昨年、5年連続7度目の王者に輝き、今シーズンも連覇が濃厚と見られていた中須賀だったが、開幕2戦で転倒しノーポイント。3戦目は、最終ラップまでトップを走りながら、バックマーカーと接触し転倒。4戦目のオートポリスでようやく今季初優勝を飾るものの、5戦目で再びトップを走りながら転倒となり、タイトル防衛は絶望的となってしまう。野左根も緒戦で転倒。6月のオートポリスは、世界耐久参戦のために欠場となったため、2度のノーポイントが響き暫定ランキングは、6番手となっている。しかし、速さでは、YAMAHA FACTORY RACING TEAMの2人が抜き出ている状況だ。特に今回は、中須賀の仕上がりが郡を抜いている。事前テストから今シーズンの課題となっている17インチタイヤとのマッチングを改善するために試行錯誤を繰り返し、タイヤからのインフォメーションを感じやすくなり、今シーズン一番の仕上がりになっていると言う。実際、予選では、ただ一人1分27秒台をマーク。アベレージタイムも速いだけに今回は、中須賀のワンサイドとなる可能性が高いだろう。一方、野左根は、ポールドール24時間耐久に参戦し、決勝で転倒。頭を打ち、身体も痛めてしまい事前テストに参加できず、金曜日に初めて岡山国際サーキットを今年のR1で走った。予選は、3番手とフロントロウにつけるがテスト不足は否めない感じた。「今ひとつ乗り切れていないですね。他の人より少ない時間の中の岡山ラウンドですから、1分1秒でも有効に使わないといけない立場ですからね。中須賀選手について行ける

だけ、ついて行ってヤマハ1-2を今回こそ実現したいです」と野左根。

この野左根の前に予選で入ってきたのが高橋裕紀だった。ピレリタイヤを履くモリワキは、予選専用とも言えるタイヤを投入。これが見事に機能し、高橋裕紀が2番手、清成龍一が5番手と、それぞれ今シーズン最高位グリッドを獲得した。タイトル争いを繰り広げている3人では、津田が最上位の4番手。渡辺が6番手、高橋巧が7番手という予選結果。「まだまだ、うまくニューGSX-R1000を仕上げられていない部分がありますが、とにかく前に食らいついて行きたいですね。ライディング部分で補えるところは補って勝負して行きます」と津田。渡辺は、「事前テストで、ZX-10RRで初めて岡山を走りましたが、ステップ・バイ・ステップで来ています。チームが本当にマシンをいい状態にしてくれているので感謝です。その想いに結果で応えられるように頑張るだけです」とコメント。そして高橋巧は「マシンをうまくまとめきれないですね。決勝日朝のウォームアップ走行も使って最後まであがきますよ。その中で自分のやる仕事をキッチリこなしたいですね」と語った。

レースは、異次元の速さを見せている中須賀がリードしそうだ。これに野左根とタイトルを争う3人とモリワキの2人が、どこまでついて行けるか? そして調子を上げてきている加賀山就臣が3列目からロケットスタートを見せるか!? チームのホームレースとなる山口辰也も追上げたいところ。24周で争われる決勝は、どんな結末が待っているのだろうか!?

**ISB 1000**  
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

**QUALIFYING PRACTICE**  
REPORT & INTERVIEW



**ポールポジション:1分27秒602**  
**#1 中須賀克行**  
**YAMAHA FACTORY RACING TEAM**

『岡山国際サーキットは、アスファルトが新しくなり、グリップも上がっているので混戦になると思っていました。事前テストからニューアイテムをいろいろ試し、課題であった17インチタイヤとのマッチングに対していいものがあつたので、タイヤのインフォメーションを感じることができるようになりました。公式予選でも、久しぶりに1分27秒台に入れることができましたし、気持ちよく走れるようになってきました。今シーズンは、チャンピオン防衛は難しい状況になっているので、今回の岡山ラウンドを含めて、残り3戦全て勝つつもりで臨みます』

**JP 250** Presented by **DUNLOP**

**インターは藤井謙汰、佐野勝人が優勝。ナショナルは上原大輝が連勝でタイトル獲得!**

決勝レース1では、予選3番手の藤井謙汰が絶好のダッシュを決め、ホールショットからレースをリードする。しかし、次第に予選上位7台によるバトルになる。中でも藤井、P.P.の上原大輝、笠井悠太らが激しく競り合い、最終ラップまで順位争いを展開した。結局藤井が優勝、2位笠井、3位上原となった。



**決勝レース1 / 正式結果(8周 / 上位15位)**

●9月30日(土)天候 / 予選・決勝 晴 ドライ 出走42台

Pos	No	Cls.	Rider	Team	RaceTime
1	90	I	藤井 謙汰	テルル・MotoUPレーシング	14'17.418
2	20	I	笠井 悠太	TEAM TEC.2	14'17.448
3	73	N	上原 大輝	CLUB HARC-PRO.	14'17.566
4	92	N	成田 彬人	Team HIRO	14'17.870
5	97	I	佐野 優人	TEAM・BATTLE	14'18.016
6	23	N	砂泊 孝太	Spike&Kurodaya	14'19.040
7	17	I	井手 翔太	HITMAN RC甲子園ヤマハ	14'21.855
8	54	I	亀井 駿	T.Pro with テルル	14'27.698
9	26	N	田中 敬秀	7CエムズホームCAC=NTR	14'29.858
10	11	N	豊島 智博	ライダーズサロン横浜	14'29.872
11	35	N	小椋 華恋	キジマKISSレーシングチーム	14'30.048
12	46	I	小谷 咲斗	TEAM ALTEC NECTO T-Craft	14'30.181
13	19	I	久保 直諒	Titanium Power Racing	14'30.396
14	13	I	藤村 太機	TRICK STAR Club	14'30.850
15	21	N	平松 太陽	YSS・アゲイン・ゴルフ・西港ベース	14'35.200



**決勝レース2 / 正式結果(8周 / 上位15位)**

●9月30日(土)天候 / 予選・決勝 晴 ドライ 出走42台

Pos	No	Cls.	Rider	Team	RaceTime
1	73	N	上原 大輝	CLUB HARC-PRO.	14'21.059
2	92	N	成田 彬人	Team HIRO	14'21.188
3	23	N	砂泊 孝太	Spike&Kurodaya	14'21.364
4	97	I	佐野 優人	TEAM・BATTLE	14'21.606
5	90	I	藤井 謙汰	テルル・MotoUPレーシング	14'21.830
6	78	N	松元 聖也	Team HIRO	14'23.622
7	54	I	亀井 駿	T.Pro with テルル	14'23.676
8	46	I	小谷 咲斗	TEAM ALTEC NECTO T-Craft	14'23.909
9	11	N	豊島 智博	ライダーズサロン横浜	14'29.513
10	35	N	小椋 華恋	キジマKISSレーシングチーム	14'29.638
11	77	N	豊島 怜	DOG FIGHT RACING・YAMAHA	14'29.994
12	26	N	田中 敬秀	7CエムズホームCAC=NTR	14'36.236
13	27	N	石井 千優	Team千葉北☆N-PLAN	14'37.363
14	3	N	藤永 優	RPM・PRO POWER Asia&DOG FIGHT R	14'37.496
15	19	I	久保 直諒	Titanium Power Racing	14'37.524

**I-GP2**  
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP  
**QUALIFYING PRACTICE**  
REPORT & INTERVIEW

**水野涼がコースレコードを塗り替えてポールポジション!**  
「アドバンテージは自分にある。進化した走りを見せる」



水野涼

J-GP2クラスの公式予選も40分間の1セッション。金曜日の練習走行から非公式ながらコースレコード(1分31秒266)を上回っている水野涼が、予選でもセッション開始早々に1分31秒8でトップに立つと、翌周には31秒095をマークしてこの時点でレコードをブレイク、5周目には30秒750までタイムアップして、他の追従を許さない。2番手には石塚健も31秒5、関口太郎が31秒6、生形秀之、岩戸亮介までが31秒台で続く。セッション中盤にかけても各ライダーは少しずつタイムを削ってくるが、トップの水野を脅かすところまでは

至らない。終盤、石塚が31秒091をマークして2番手、その後に関口も31秒2で続き、さらに30秒889を叩き出して、石塚をかわして水野に迫る。しかし、終盤の激しいアタックもここまで。水野が2戦連続、今年3回目のポールポジションを3年振りのニューレコードタイムで決めた。

2番手は水野以外に唯一30秒台に入れた関口、そして石塚がフロントロウ、4番手には最後のアタックで31秒167までタイムアップした岩崎哲朗、31秒293で生形、31秒412で岩戸と続いた。



**ポールポジション:1分30秒750**  
**#634 水野 涼**  
**MuSASHi RT HARC-PRO.**

『長いインターバルの間に鈴鹿8耐にも出る、グランプリ(ワイルドカード参戦)もある、ということで普段乗っていない車両やタイヤに乗っていました。それが逆に今回のテストでさらに一歩新しく進化した走りが出てきていると感じているところです。テストもいい調子で、自己ベストも更新できたし、ウィークにはポジティブに入れました。予選タイムが自分の想定より低かったことと、2位以下にもっと差を付けられなかったのでそこに悔いがあります。周りを見ても自分の方がアドバンテージがあると確信できましたし、自分の走りをすれば逃げ切れると思います』

**ST 600**  
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP  
QUALIFYING PRACTICE  
REPORT & INTERVIEW



## 國峰啄磨がクラス初のポールポジション獲得! 「必ず(前田選手の)前でゴールしたい」



國峰啄磨

土曜日午前中最後の予選がST600クラス。このクラスは、ブリヂストンのワンメイク制となっており、使える本数も予選、ウォームアップ、決勝を通じて2セットに制限されている。そのため、40分間の予選セッションでも早い段階でタイムを出してくるライダーが多い。今回も金曜日の練習走行から上位に名を連ねてきたライダー達が早々にタイムを出してくる。その中でも國峰啄磨が3周目に1分33秒097をマークしてトップに立つと、最終的にこのタイムでクラス初となるポール

ポジションを獲得した。

岡本裕生も33秒449でそれに続くが、國峰に4ポイント差を付けて初タイトルを狙う前田恵助がアタック、33秒155で岡本のタイムを上回り2番手に浮上した。その後もアタックするが、結局このタイムのまま2番手でセッションを終えた。3番手が岡本、4番手に田所隼で33秒730、名越哲平が33秒955、亀井雄大が33秒983でセカンドロウを構成。和田留佳、山本聖、奥田教介と34秒台前半で続いた。



ポールポジション:1分33秒097  
#50 國峰啄磨  
T.Pro Innovation

『オートポリスで初優勝してからすごく調子も良く、長いインターバルの間にも色々な車体に乗ることができ、今年はスタンダードの車体と溝付きタイヤという組み合わせですが、新しい武器が身に付いた感じです。テストも最初から好調で、タイムも出ていましたが、不満もありました。ただウィークに入ってからは新しいセットが決まって良かったと思います。チャンピオン争いを考えると、必ず(前田選手の)前でゴールしたいですが、決勝は逃げることはできず、一騎打ちになりそうですので、今まで一緒に走ったことはないのですが、レース中にしっかり見極めて、勝てるように組み立てます』

**J-GP3**  
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP  
QUALIFYING PRACTICE  
REPORT & INTERVIEW

## 栗原佳祐が逆転、1年振りのポールポジション獲得!! 「自分を信じて優勝を目指します」

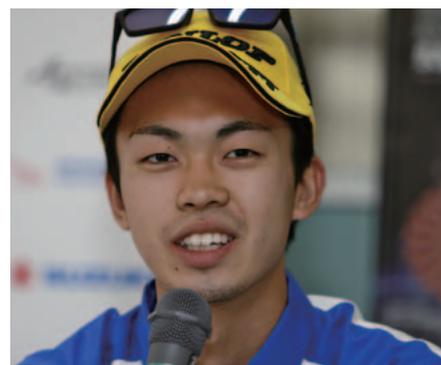


栗原佳祐

岡山国際サーキットは朝から晴れ、絶好のレース日和となった。最初の公式予選はJ-GP3クラス。40分間のセッション早々から古市右京が1分37秒3でトップタイム。セッション序盤は安村武志、栗原佳祐までが37秒台、高杉奈緒子、小室旭らが上位につける。

中盤にかけて各ライダーもタイムアップしてくるが、古市も36秒938と只一人36秒台に入れてトップをキープ。栗原も37秒台に入れた後、37秒147までタイムアップするが2番手のまま。高杉、安村、太田虎之進、佐野勝人までが37秒台でモニター上位に名を連

ねる。金曜日の練習走行から2セッションともトップタイムをマークしている古市がこのままポールポジションに突き進むかと思われた、残り10分を切ったあたりで、栗原が36秒635のタイムをマークしてトップに立つ。古市も最後のアタックに臨むが、タイムは更新できず、栗原が昨年岡山大会以来のポールポジションを獲得した。3番手には37秒262で小室。セカンドロウ4番手が安村、高杉、太田の順。小室と1ポイント差でランキングを争う伊達悠太はタイムが上がらず37秒974で11番手に終わっている。



ポールポジション:1分36秒635  
#2 栗原佳祐  
MORIWAKI CLUB

『今回までに3カ月のインターバルの間に森脇社長から「モリワキの車体で走ろう」という提案があって、モリワキの皆さんのお陰でテストからMDの車体を走らせることができました。初めてのシャシーですし、開発も中断してペーステストデータもない状態でテストがスタートしたので、不安と期待が交差する感じで始まったんですけど、最終的には昨年の予選タイム近くまで出す事ができて、凄いいフィードバックでテストを終えることができました。不安なのはロングができていないことですが、目標の36秒はクリアできたので、後は自分を信じて走り、優勝できるように頑張ります』

MFJ Superbike Round 8 SUPERBIKE RACE in OKAYAMA 30 Sep. - 01 Oct. 2017 公式予選結果



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走38台  
●決勝スタート/14:10(24周)

Pos.	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	1	中須賀 克行	YAMAHA FACTORY RACING TEAM	YZF-R1	1'27.602
2	72	高橋 裕紀	MORIWAKI MOTUL RACING	CBR1000RR	1'28.459
3	5	野左根 航汰	YAMAHA FACTORY RACING TEAM #5	YZF-R1	1'28.463
4	12	津田 拓也	ヨシムラスズキMOTUL	GSX-R1000R	1'28.500
5	88	清成 龍一	MORIWAKI MOTUL RACING	CBR1000RR	1'28.676
6	23	渡辺 一馬	Kawasaki Team GREEN	ZX-10RR	1'28.728
7	634	高橋 巧	MuSASHI RT HARC-PRO. Honda	CBR1000RR SP2	1'28.948
8	71	加賀山就臣	Team KAGAYAMA	GSX-R1000	1'29.187
9	9	藤田 拓哉	YAMALUBE RACING TEAM	YZF-R1	1'29.199
10	104	山口 辰也	TOHO Racing	CBR1000RR SP2	1'29.281
----- 以上Q2にて決定 -----					
11	39	酒井 大作	Team Motorrad39	S1000RR	1'29.534
12	50	濱原 颯道	ヨシムラスズキMOTUL	GSX-R1000R	1'29.710
13	090	秋吉 耕佑	au&テルル・Kohara RT	CBR1000RR	1'30.033
14	94	浦本 修充	Team KAGAYAMA	GSX-R1000	1'30.071
15	46	松崎 克哉	Kawasaki Team GREEN	ZX-10RR	1'30.120
16	85	中富 伸一	HITMAN RC甲子園ヤマハ	YZF-R1	1'30.452
17	18	近藤 湧也	JOYNET GBSレーシング YAMAHA	YZF-R1	1'30.579
18	47	上和田 拓海	Webike チームノリッパヤマハ	YZF-R1	1'30.742
19	32	今野 由寛	MotoMap SUPPLY FA	GSX-R1000	1'30.977
20	62	津田 一磨	Titanium Power&BabyFace	YZF-R1	1'31.458
21	450	相馬 利胤	TT45	YZF-R1	1'31.783
22	080	瀧美 心	UQ&テルル・Kohara RT	CBR1000RR	1'31.816
23	34	岡村 光矩	KRP三陽工業&RS-ITOH	ZX-10RR	1'32.142
24	28	吉田 光弘	Honda熊本レーシング	CBR1000RR	1'32.299
25	16	児玉 勇太	STONE RT SYNCEDGE 4413	S1000RR	1'32.665
26	13	中津原 尚宏	オートテックスポーツPGR	CBR1000RR	1'32.866
27	29	小島 一浩	Honda熊本レーシング	CBR1000	1'32.946
28	41	樋口 耕太	H.L.O RACING	GSX-R1000L7	1'33.063
29	38	筒井 伸	DOGFiSH O-TEC suzuka	CBR1000RR	1'33.170
30	40	吉田 和憲	大阪Mobius icu racing team	YZF-R1	1'33.258
31	43	須貝 義行	チームスガイレレーシングジャパン	RSV4RF	1'33.678
32	74	西中 綱	ルート17&MOTORCYCLES#27&Life	CBR1000RR	1'33.803
33	84	田村 武士	テイクアップ OIRF	GSX-R1000	1'33.855
34	49	原田 洋孝	RS-ガレージハラダ姫路	ZX-10R	1'34.272
35	58	慶楽 大樹	チーム・エッチングファクトリー	YZF-R1	1'34.872
36	59	有川 浩太郎	チーム・エッチングファクトリー	YZF-R1	1'35.658
37	67	和多瀬邦治	DOGFiSH・オーテック鈴鹿	YZF-R1	1'36.039
38	77	田口 敏雅	チーム備前精機&パナ・ハンズ	YZF-R1	1'36.599

----- 以上予選通過 -----  
----- 以上Q1にて決定 -----  
Q1:開始後9分42秒時点で赤旗提示。残り30分18秒で再開した。(中断時間 13:59~14:06)  
予選通過基準タイム (110%) 1'37.489



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走36台  
●決勝スタート/15:35(19周)

Pos.	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	50	國峰 琢磨	T.Pro Innovation	CBR600RR	1'33.097
2	5	前田 恵助	伊藤RACING・GMDスズカ	YZF-R6	1'33.155
3	52	岡本 裕生	51ガレージ チームイワキ	YZF-R6	1'33.449
4	18	田所 隼	TEAM PLUSONE	CBR600RR	1'33.730
5	3	名越 哲平	Mistresa RT HARC-PRO.	CBR600RR	1'33.955
6	17	亀井 雄大	Honda鈴鹿レーシングチーム	CBR600RR	1'33.983
7	15	和田 留佳	RS-ITOH&サンタバイク	ZX-6R	1'34.011
8	13	山元 聖	51ガレージ チームイワキ	YZF-R6	1'34.102
9	57	奥田 教介	teamMF& KAWASAKI	ZX-6R	1'34.108
10	46	星野 知也	TEAM PLUSONE	CBR600RR	1'34.334
11	41	仲村 優佑	AKENO SPEED・YAMAHA	YZF-R6	1'34.481
12	70	清末 尚樹	RS-ITOH	ZX-6R	1'34.697
13	40	南本 宗一郎	AKENO SPEED・YAMAHA	YZF-R6	1'34.764
14	25	松川 泰宏	MOTO BUM+SAI	CBR600RR	1'34.854
15	16	中村 豊	Moto BUM HONDA	CBR600RR	1'34.921
16	48	行村 和樹	TOHO Racing Club	CBR600RR	1'35.054
17	※24	田尻 克行	グリーンクラブ 能塚	ZX-6R	1'35.230
18	※20	名越 公助	GBS YAMAHA マツエゼン忠男	YZF-R6	1'35.230
19	38	杉山 優輝	MOTO BUM HONDA	CBR600R	1'35.601
20	28	山内 芳則	YSSマーキュリー&スピードハートTTS	ZX-6R	1'35.974
21	39	古山 颯太	伊藤RACING・GMDスズカ	YZF-R6	1'35.980
22	27	大野 英樹	B~DASH106 Snail Racing	ZX-6R	1'36.318
23	90	中村 龍之介	au&テルル・Kohara RT	CBR600RR	1'36.321
24	43	森中 忍	B~dash106+Little Wing	CBR600RR	1'36.679
25	26	櫻井 賢一	MOTO BUM	CBR600RR	1'36.683
26	56	兵藤 龍之介	AZ Racing+NARIDEN	YZF-R6	1'36.694
27	91	小川 葵	AKENO SPEED	YZF-R6	1'36.837
28	99	森 賢哉	FaTMAN RC甲子園 J-TRIP	YZF-R6	1'36.996
29	36	定井 満	カメイR ガレージA'井笠オート	ZX-6R	1'37.740
30	53	河端 清次	Kマーキュリー&ヒロノスポーツ	ZX-6R	1'38.074
31	45	安福 央樹	Team ALLTEC NECTO T-craft	YZF-R6	1'38.078
32	61	本多 太一	KBSレーシングwithJ-TRIP	YZF-R6	1'38.097
33	58	村瀬 豊	ifレーシング&モトテックRS	CBR600RR	1'38.392
34	67	野村 友治	AKENO・SPEED	YZF-R6	1'39.397
35	88	宮脇 健二	Trip Trap&亀甲堂	YZF-R6	1'39.724
36	92	福島 正樹	ToyBoy&FACTORY&MMRT	CBR600RR	1'40.697

----- 以上予選通過 -----  
81 喜井 勝弥 Team GRIFFON&池田モータース YZF-R6 出走せず  
※本予選は開始後20分24秒時点で赤旗提示。残り19分36秒で再開した。(中断時間 11:00~11:10)  
※ゼッケンNo.24,20の順位は、MFJ国内競技規則 付則4 ロードレース競技規則 15-2-4(同タイムによるセカンドラップタイムの採用)を適用し決定した。  
予選通過基準タイム (110%) 1'42.407



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走23台  
●決勝スタート/10:00(19周)

Pos.	No.	Cls.	Name	Team	Machine	BestTime
1	2		栗原 佳祐	MORIWAKI CLUB	MD250	1'36.635
2	7		古市 右京	KTM RACING	RC250R	1'36.938
3	17		小室 旭	Team P.MU 7C	NSF250R	1'37.262
4	3		安村 武志	犬の乳酸菌.jp/プリミティブRT	PRCS3C	1'37.291
5	14		高杉 奈緒子	41Planning	NSF250	1'37.340
6	11		太田 虎之進	WJ-FACTORY	NSF250R	1'37.595
7	12		船田 俊希	TEAM PLUSONE	NSF250R	1'37.618
8	34	Y	中島 元氣	TEAM SRS-Moto	NSF250R	1'37.735
9	※33		佐野 勝人	犬の乳酸菌.jp/プリミティブRT	PRCS3b	1'37.958
10	※10		山本 恭裕	チームライブ/ドリーム北九州	NSF250R	1'37.958
11	64	Y	伊達 悠太	BATTLE FACTORY	NSF250R	1'37.974
12	500		AnupabSarmoon	41Planning	NSF250	1'37.984
13	6		岡崎 静夏	UQ&テルル・Kohara RT	TSR3	1'38.179
14	41		宇井 陽一	41Planning	TR-004@	1'38.217
15	13	Y	長谷川 聖	CLUB Y's	NSF250R	1'38.640
16	36	Y	福嶋 佑斗	TEAM PLUSONE	NSF250R	1'38.663
17	24		金子 寛	ifレーシング AutoMac 翔天恭	NSF250R	1'38.947
18	72		岸田 慶一	FLEX Racing TEAM & MH OHARA	NSF250R	1'39.233
19	20		三好 菜摘	オーテック・スズカ+RGニワ	NSF250R	1'39.421
20	31		荘 安育	SHARK FACTORY aRacer BATTLE	NSF250R	1'40.394
21	23		川瀬 啓一郎	Club NEXT & KOHSAKA	TSR3	1'40.572
22	21		畑中 要	FTR・タイヤナビ・(株) 遠藤住宅	NSF250R	1'41.144
23	22		白石 玲菜	Dreamline Team REINA	NSF250R	1'41.551

----- 以上予選通過 -----  
※ゼッケンNo.33,10の順位は、MFJ国内競技規則 付則4 ロードレース競技規則 15-2-4(同タイムによるセカンドラップタイムの採用)を適用し決定した。  
区分:Y=Youthカップ  
予選通過基準タイム (110%) 1'46.299



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走21台  
●決勝スタート/11:05(19周)

Pos.	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	634	水野 涼	MuSASHI RT HARC-PRO.	HP6q	1'30.750R
2	44	関口 太郎	SOX Team TARO PLUSONE	HP6	1'30.889R
3	5	石塚 健	WILL-RAISEracingRS-ITOH	ZX-6R	1'31.091R
4	70	岩崎 哲朗	OGURAcClutch with パワービルダー	ZX-6R	1'31.167R
5	4	生形 秀之	エスバルスドリームレーシング	GSX-R MFD6	1'31.293
6	31	岩戸 亮介	Team高武 RSC	MD600	1'31.412
7	8	作本 輝介	Team高武 RSC	MD600	1'31.778
8	17	井筒 仁康	WILL-RAISEracingRS-ITOH	ZX-6R	1'31.908
9	32	榎戸 寛寛	MOTO BUM HONDA	CBR600RR	1'31.977
10	36	徳留 真紀	マルマEPLUSONE	SPEED UP	1'32.316
11	10	大木 崇行	T.Pro HARC	HP6	1'32.432
12	39	柴田 陸樹	RS-ITOH&AUTOBOY	ZX-6R	1'32.554
13	392	村瀬 健琉	ミクニ テリー&カリ	GSX-R600	1'32.751
14	16	中本 都	STONE RT SYNCEDGE 4413 BIZEN	HP6	1'33.546
15	33	KUBO Keminth	Thailand ヤマハチームノリック	YN6	1'33.641
16	93	稲垣 誠	AKENO SPEED・YAMAHA	YZF-AS6	1'33.795
17	28	朝比奈 正	アサヒナレーシング	Z600	1'37.242
18	85	梅島 明	チーム備前精機&BH&脇坂R	ZX-6RFS	1'37.259
19	72	関一正	T.R.P.	YZF-KS6	1'37.329
20	21	赤間 清	Mistresa RT HARC-PRO.	HP6	1'37.457
21	27	山内 宏之	立秋モータース&RC甲子園	YZF-R6	1'37.874

----- 以上予選通過 -----  
R印は、コースレコードを更新した。(従来のレコード:1'31.266)  
予選通過基準タイム (110%) 1'39.825

INFORMATION

**RIDE & DRIVE** 全てのモータースポーツファンに  
向けてレースをお届けします!

全日本ロードレース全戦が無料BS放送のBS12(番組名「RIDE&DRIVE」)で放送されます! 放送時間はレース6日後の土曜日、27:00~27:54に変わりました。

★詳しい放映スケジュール等はファンサイトで!

■全日本ロードレース選手権第8戦  
スーパーバイクレース in 岡山/ 放映スケジュール  
10月7日(土) 27:00~27:54



インターネットライブ中継&動画配信も充実!!



サーキットの場内監視(ポスト)映像に外部カメラ映像をプラスし、「MFJライブチャンネル」にて配信。中継配信がより充実しました。※通信環境により配信となる場合もあります

YouTube MFJ SUPERBIKE オフィシャルチャンネルでは、予選・決勝直後のライダーインタビューを中心に、全日本ロードレースの迫力を動画にて配信!

詳しくはファンサイトで → <http://superbike.jp/>

